

福生市高齢者・障害者生活実態調査 報告書

概要版

1. 調査実施の目的

本調査は、平成26年度に実施する介護保険事業計画及び障害福祉計画の見直しに向け、高齢者・障害者の生活実態及び福祉施策に対する要望等を把握するため、実施した。

2. 調査の種類

調査の種類		調査対象	対象者数
高齢者	非認定～要介護2	65歳以上の市民	1,996人
		要支援1～要介護2の市民	919人
	要介護3以上	要介護3以上の市民	457人
障害者	身体・知的障害者 難病患者	身体障害者手帳を交付されている市民 愛の手帳を交付されている市民 難病にり患されている市民	1,706人
	精神障害者	精神・神経科の医療機関に入院・通院されている市民 福祉施設を利用されている市民 市内のグループホームで生活されている市民	192人

3. 調査方法と回収状況

調査方法：郵送配布一郵送回収法（調査期間中に礼状兼督促はがきを1回送付）

調査期間：平成25年11月12日（火）～11月30日（土）

回収状況：下表のとおり

調査の種類		配布数	有効回収数	有効回収率
高齢者	非認定～要介護2	2,915件	1,882件	64.6%
	要介護3以上	457件	207件	45.3%
障害者	身体・知的障害者・難病患者	1,706件	894件	52.4%
	精神障害者	192件	90件	46.9%

4. 調査項目

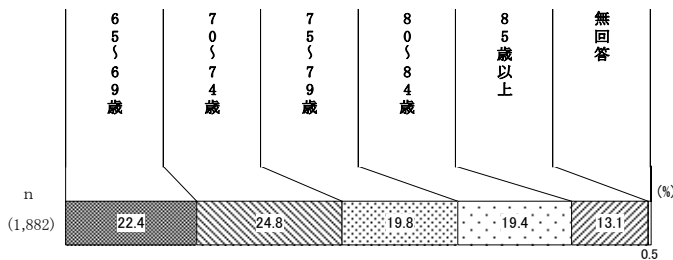
高齢者生活実態調査	障害者生活実態調査
1. 基本属性	1. 基本属性
2. 生活の状況	2. 生活の状況
3. 住まいについて	3. 日常生活について
4. 運動や外出について	4. 健康・医療について
5. 転倒について	5. 就労について
6. 口腔・栄養について	6. 収入について
7. 物忘れについて	7. 社会参加と日ごろの活動について
8. 日常生活について	8. 住まいについて
9. 健康づくり、医療と介護予防について	9. 障害者福祉サービスについて
10. 社会参加と日ごろの活動について	10. 在宅サービス利用者の今後の利用意向
11. 介護保険について	11. 施設サービス利用者の今後の利用意向
12. 高齢者施策について	12. その他の福祉サービスについて
	13. 災害時の対応について

高齢者調査の結果

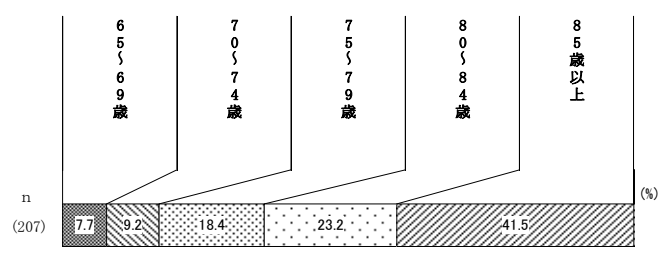
(1) 基本属性

① 年齢

非認定～要介護2

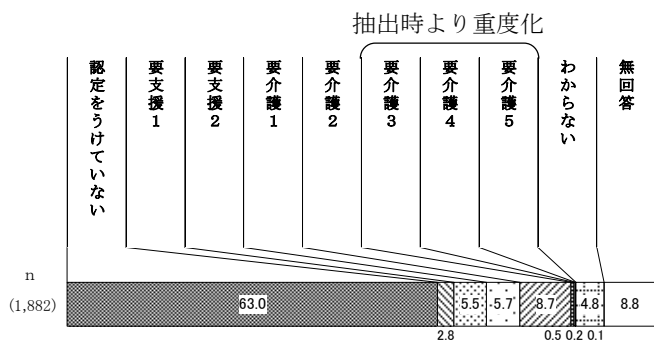


要介護3～5

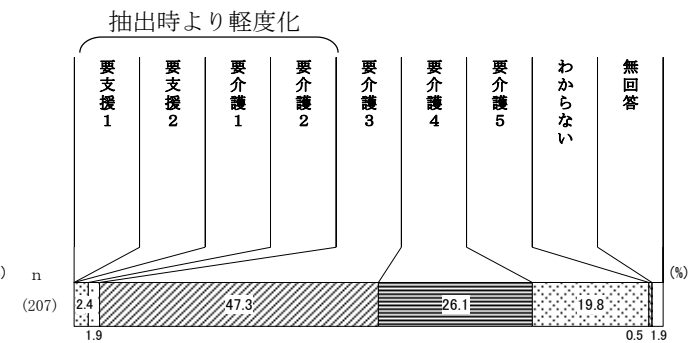


② 要介護度

非認定～要介護2

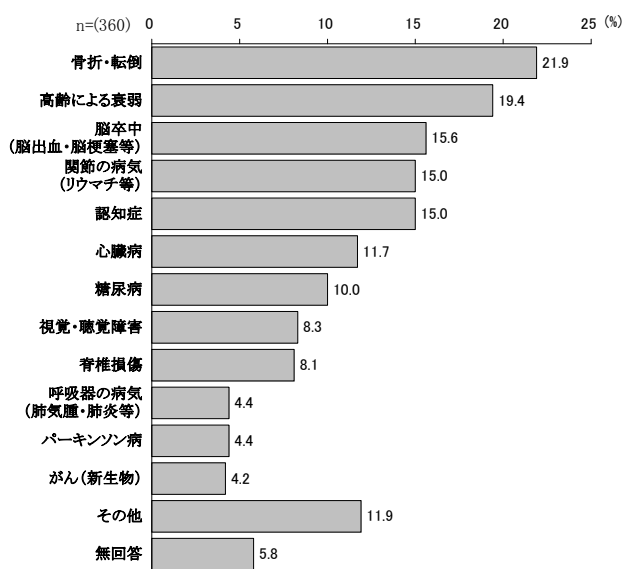


要介護3～5

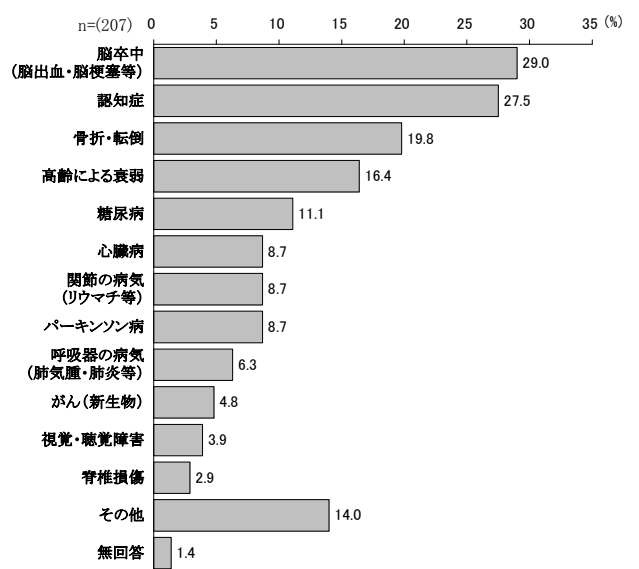


介護が必要になった主原因

非認定～要介護2



要介護3～5



介護が必要になった原因は、非認定～要介護2では、「骨折・転倒」「高齢による衰弱」が2割前後で多くなっています。要介護3～5では、「脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)」「認知症」が3割に近くなっています。

(2) 暮らしについて

① 今後望ましい本人の生活場所（要介護3～5調査のみ）

「家族の介護を受けながら自宅で生活する」が3割を超え、「居宅サービスを受けながら自宅で生活する」を含めると自宅での生活を希望する人が5割を占めています。次に「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する」「居宅サービスを受けながら自宅で生活する」が2割前後で続いています。

② 介護していく上での問題点（要介護3～5調査のみ）

「精神的に疲れ、ストレスになる」が6割台前半で特に多くなっています。次に「終わりの見えない介護への不安」「肉体的に疲れる」「自分の自由な時間がない」が4割台で続いています。

③ 暮らしのゆとり

非認定～要介護2では、「苦しい」「やや苦しい」を合わせた<苦しい>は58.2%、「ややゆとりがある」「ゆとりがある」を合わせた<ゆとりがある>は37.3%となっています。要介護3～5では、「やや苦しい」が3割台半ばを超え、「苦しい」と「ややゆとりがある」が2割台半ばで続いています。<苦しい>は62.8%、<ゆとりがある>は30.0%です。

(3) 日常生活について

① 買物の頻度（非認定～要介護2調査のみ）

非認定では、「週2、3日」が約3割で最も多く、次いで「ほぼ毎日」が2割台後半となっています。要支援1～2は、「週2、3日」と「週1日」が2割台前半で多く、要介護1～2では、「週1日未満」が2割台半ばで最も多くなっています。

② 散歩の頻度（非認定～要介護2調査のみ）

非認定が2割台後半で最も多く、要支援1～2は「週2・3日」が2割台前半、要介護1～2は「週1日未満」が2割台後半で多くなっています。買物、散歩とも介護が上がるにしたがい、外出の回数が減少しています。

③ 移動手段（非認定～要介護2調査のみ）

非認定では「徒歩」が7割台前半で最も多く、次いで「自転車」が4割台後半、「自動車（自分で運転）」「電車」が3割台半ば～後半で続いています。要支援1～2は「徒歩」が4割台前半と最も多くなっています。次いで、「自動車（人に乗せてもらう）」が3割台後半、「タクシー」が3割台前半となっています。要介護1～2では、「自動車（人に乗せてもらう）」が約5割で最も多く、次いで「徒歩」が3割台後半となっています。

④ 食事をとる機会（非認定～要介護2調査のみ）

自分一人ではなく、誰かと食事をとる機会については、非認定の約6割が「毎日ある」と回答し、要介護1～2では5割台前半、要支援1～2では4割が「毎日ある」と回答しています。「月に何度かある」は要支援1～2で2割第前半となっています。

(4) 健康づくり・医療と介護予防について

① 主観的健康感（非認定～要介護2調査のみ）

普段の自分の健康状態については、「とても健康」と「まあまあ健康」を合わせた<健康>は

非認定では8割台後半となっていますが、要支援1～2と要介護1～2では、5割台前半となっています。一方、「あまり健康でない」と「健康でない」を合わせた<健康でない>は、要支援1～2と要介護1～2で4割台となっています。

② 治療中の病気の種類

非認定～要介護2では、「高血圧」が4割台半ばで最も多く、要介護3～5では、「高血圧症」が4割台前半、「認知症」が3割、「糖尿病」が2割となっています。かかりつけ医については、「いる」が約8割となっています。

③ 通院状況（非認定～要介護2調査のみ）

「はい」（通院している）が8割となっています。

④ 通院頻度（非認定～要介護2調査のみ）

「月1回程度」が4割台後半で特に多くなっています。次に「2か月に1回程度」「月2～3回」が1割台で続いています。

（5）社会参加と日ごろの活動について

社会参加と日頃の活動（非認定～要介護2調査のみ）

- ① 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。
- ② 新聞を読んでいますか。
- ③ 本や雑誌を読んでいますか。
- ④ 健康についての記事や番組に関心がありますか。
- ⑤ 友人の家を訪ねていますか。
- ⑥ 家族や友人の相談にのっていますか。
- ⑦ 病人を見舞うことができますか。
- ⑧ 若い人に自分から話しかけることができますか。
- ⑨ 趣味はありますか。
- ⑩ 生きがいはありますか。

非認定では、<友人の家を訪ねていますか>を除いてすべての項目で「はい」が7割台前半から9割台前半と多くなっています。<健康についての記事や番組に関心がありますか>は非認定では「はい」が約9割、要支援1～2では9割台前半と多く、要介護1～2では6割台後半と減少していますが、他の項目と比較すると「はい」が高い割合となっています。<友人の家を訪ねていますか>は、非認定では「はい」が5割台後半、要支援1～2では約半分の2割台前半、要介護1～2では、1割となっています。それ以外の活動については、介護度が上がるにしたがい、「はい」の割合が減少し、<家族や友人の相談にのっていますか>は、非認定では約8割ですが、要支援1～2では5割台前半、要介護1～2で3割台前半となっています。<病人を見舞うことができますか>は、非認定では「はい」が9割台前半、要支援1～2で4割台後半、要介護1～2で約3割と減少しています。相談相手（非認定～要介護2調査のみ）

家族や友人・知人以外の相談相手については、「ケアマネージャー」が要支援1～2で2割台前半、要介護1～2では約4割となっています。非認定では「医師・歯科医師・看護師」が1割台半ばです。一方、「そのような人はいない」が非認定では約5割となっています。

(6) 介護保険について

① サービスと保険料の考え

介護サービスと介護保険料については、「介護サービスも介護保険料も今くらいが妥当である」が要支援1～2で2割台前半、要介護1～2では3割台前半、要介護3～5では4割台前半と特に多くなっています。「介護サービスを抑えても、介護保険料が安いほうがよい」は非認定で2割台後半、「介護サービスを充実していくため、介護保険料の増額もやむを得ない」は要介護3～5で1割台前半と比較的多くなっています。

② サービスの満足度（要介護3～5調査のみ）

介護保険サービス全般についての満足度は、「ふつう」が3割台半ばを超え、最も多くなっています。次に「やや満足」「満足」の順に続き、これらを合わせた＜満足＞は43.0%となっています。

③ 介護保険サービスをより充実させるために必要なこと（要介護3～5調査のみ）

介護保険サービスをより充実させるために必要なことについては、「緊急時に短期入所（ショートステイ）を利用しやすくする」が4割台半ばで最も多くなっています。次に「寝たきりにならないように介護予防のサービスを充実させる」「介護職員等の人材を育成し、介護サービスの質を高める」「24時間対応できる介護サービスを導入する」が3割台で続いています。また、「地域全体で介護を支援するしくみづくりを行う」は2割強となっています。

(7) 高齢者施策について

① 高齢者福祉がより充実するために必要なこと

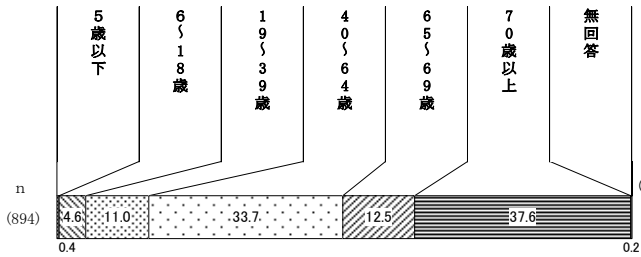
高齢者福祉がより充実するために必要なことについては、非認定～要介護2では、「介護が必要になったときに安心して利用できるように介護保険制度を充実」が5割で最も多く、「家族の介護負担を軽減するための支援」が4割台半ばで続いています。要介護3～5では、「家族の介護負担を軽減するための支援」が6割台と特に多く、「介護が必要になったときに安心して利用できるように介護保険制度を充実」が5割超で続いています。

障害者調査の結果

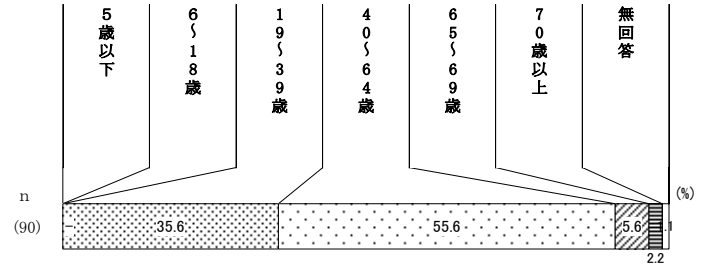
(1) 回答者の基本属性

① 年齢

身体・知的・難病



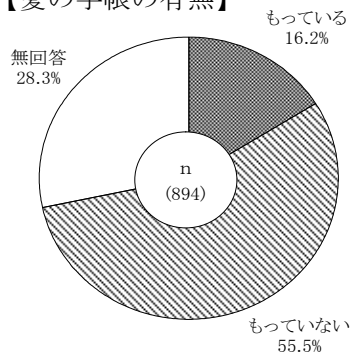
精神



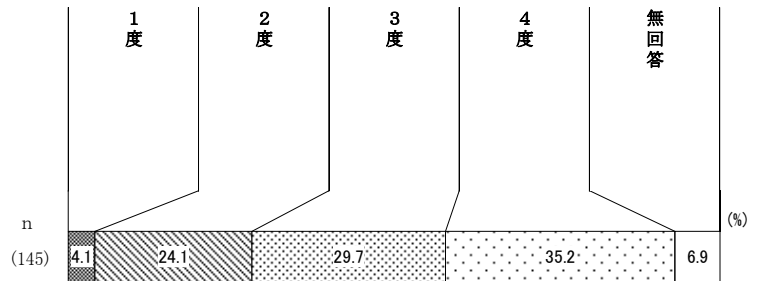
② 愛の手帳の有無、等級

身体・知的・難病

【愛の手帳の有無】



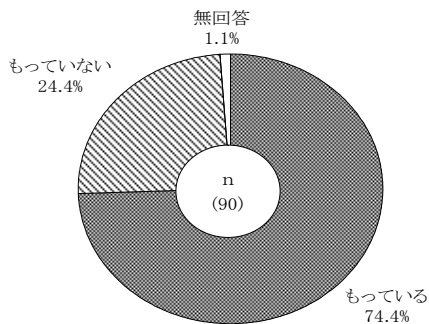
【等級】



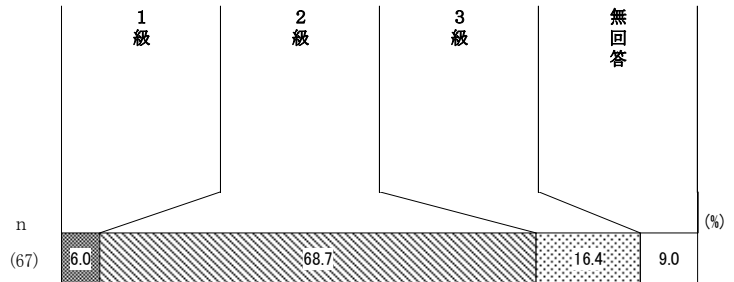
③ 精神保健福祉手帳の有無、等級

精神

【精神保健福祉手帳の有無】

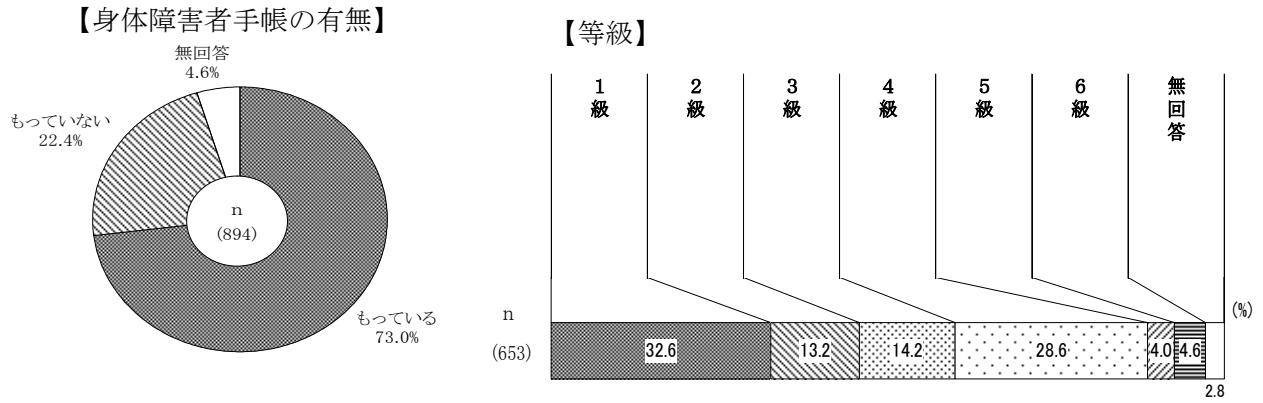


【等級】

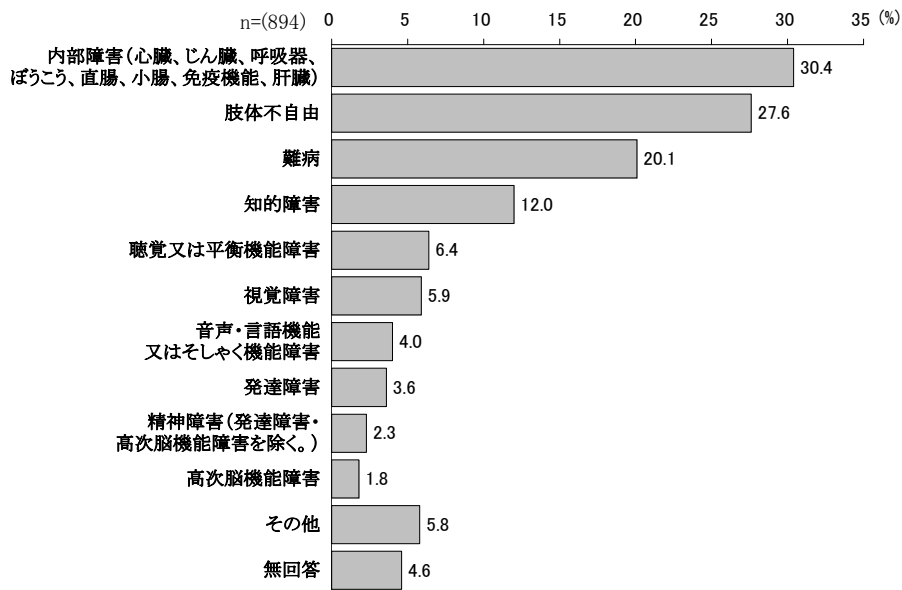


④ 身体障害者手帳の有無、等級

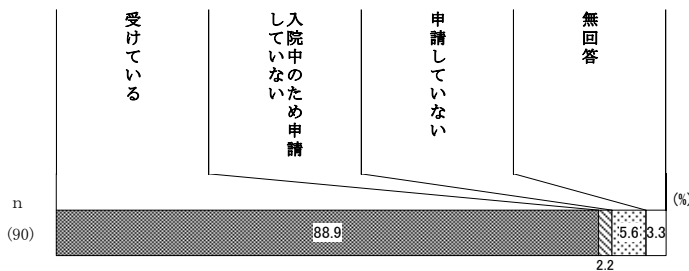
身体・知的・難病



⑤ 障害の種類（身体・知的・難病調査のみ）



⑥ 自立支援医療費助成を受けているか（精神調査のみ）



(2) 日常生活について

① 外出の状況（身体・知的・難病調査のみ）

買い物や趣味、遊び、散歩などで家からの外出は、「1人で外出する」が身体・難病で6割台半ばとなっています。「介助者と外出する」は知的障害者で4割台半ばです。

② 最も多い外出方法（身体・知的・難病調査のみ）

外出時の最も多い移動方法は、「自家用車」が難病患者で3割台後半と比較的高く、「徒歩」は2割台後半から3割台となっています。ほとんど外出しない」と回答した方の理由は、身体障害者で「外出したいとは思わない」が3割台半ばで多く、「病弱で外出できない」が1割台前半と続いています。

(3) 健康・医療について

① かかりつけの医療機関の有無（身体・知的・難病調査のみ）

8割以上が「ある」と回答しています。

② 精神神経科・診療内科の受診状況（精神調査のみ）

9割台半ばで精神神経科・心療内科のお医者さんにかかっていると回答しています。

③ 市の健康診査の受診状況

市の健康診査の受診状況は、身体・知的・難病では「受けていない」が6割台前半を占めており、「受けている」は約3割にとどまっています。精神では、「受けていない」が4割台前半、「時々受けている」が2割強、「毎回受けている」が1割台後半でこれらを合わせると「受けている」は38.9%となっています。

市の健康診査を受けていない理由としては、身体・知的・難病では「通院先で受けていた」が約3割、「勤務先で受けていた」が2割超となっています。精神では、「勤務先（通所先）で受けていた」が2割、「通院先で受けていた」が1割超となっています。

④ 市の健康相談・電話相談の利用の有無

市の健康相談・電話相談の利用について「ある」は身体・知的・難病では6.8%、精神では13.3%にとどまっています。

⑤ 未利用の主な理由

身体・知的・難病、精神ともに「特に相談したいことがなかった」が最も多くなっています。また、精神では、「相談できることを知らなかった」が3割台半ばとなっています。

⑥ 役所・保健所でほしい情報（精神調査のみ）

市役所や保健所などでほしい情報は、「福祉サービス（制度）がわかる資料」「最新の医療情報」「病気のことや家族の対応についてわかりやすく書いてあるパンフレット」の順に多くなっています。

(4) 就労について

① 就労状況

現在の就労状況は、身体・知的・難病、精神ともに「今後も現在の仕事を続けたい」が4人に1人程度となっています。身体・知的・難病では「今後も働く予定はない」「働けない状況にある」と

続いています。精神では、「働けない状況にある」が3割台後半と多くなっています。また、「現在働いていないが、今後働きたい」が2割台後半です。

現在働いているがやめたい、今後も働く予定はない、働けない状況にあると答えた方にその理由を聞いたところ、身体・知的・難病では、「病気・障害があるから」が4割を超え特に多くなっています。また、「高齢だから」は2割台後半です。精神では、「まだ、病気が良くなっていないと思うから」が4割となっています。「自分の体力や体のことが不安だから」は約2割です。

家庭・対象者自身の収入は、身体・知的・難病では、「老齢年金」が3割超えおり、「給料・賃金」は2割台前半、「障害年金」は1割となっています。精神では、「年金による収入」が4割台半ばとなっています。

② 働く場や活動の場の充実のために必要なこと（精神調査のみ）

「自分に合う仕事の紹介や相談をしてくれるところ（公共職業安定所や障害者就業・生活支援センターなど）」「病気のことを理解してくれて、就労を通して社会適応訓練などを行ってくれる制度」が4割に近く特に多くなっています。

（5）社会参加と日ごろの活動について

① 地域団体等の加入・参加状況

「加入・参加していない」が5割台半ばを超えています。「毎回加入・参加している」「ときどき参加している」を合わせた＜参加している＞は36.4%となっています。

② 楽しみや生きがいの内容

「趣味・娯楽（個人）」が4割台後半、「友人・仲間とのつきあい」が3割台後半、「家族の団らん」が2割台後半となっています。今後やってみたいことについては、「旅行（個人、団体）」が4割台半ばで特に多くなっています。

③ 平日昼間の過ごし方（精神調査のみ）

「自分の家」が4割、「就労移行・継続支援事業所」が3割台半ばと多くなっています。

④ 日曜祝日の過ごし方（精神調査のみ）

「自宅でのんびりしている」が5割で特に多くなっています。

⑤ 今特にしたいこと（精神調査のみ）

「興味があることを勉強したい」が3割を超え最も多く、「旅行へ行きたい」「働きたい」が2割を超えて続いています。「自立のための訓練を受けたい」が1割台後半です。

⑥ 今後の暮らし方の希望（精神調査のみ）

「家族と同居していきたい」が4割台前半、「ひとりで暮していきたい」が3割台後半となっています。

（6）その他の福祉サービスについて

① 地域福祉権利擁護事業の周知度

地域福祉権利擁護事業について身体・知的・難病では、「名称は聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が2割台後半、「名称も内容も知らない」が約2割となっています。精神では、「名称も内容も知らない」が4割台後半、「名称は聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が3割台半ばとなっています。

② 悩みの相談先

身体・知的・難病、精神ともに「家族（親族）」が特に多く、「友人（知人、近所の人）」が次に続いています。身体・知的・難病では「市役所」「医師」が1割を超えており、精神では「通院先などの医師」「施設の職員（グループホーム、作業所など）」が2割台で続いています。

③市に期待すること

身体・知的・難病では「障害者に配慮したまちづくり」が2割台半ばで最も多くなっています。次に「非常時における緊急通報システムの充実」「障害者理解などの啓発活動」「入所施設の整備・充実」と続いています。精神では、「通院にかかる交通費助成制度」「福祉手当の新設」「障害者理解などの啓発活動」が3割を超えています。さらに、「家事を支援してくれるサービス（ホームヘルプサービス）の充実」「就労移行・継続支援事業所など就労の場の充実」「住宅の家賃助成制度」「地域活動支援センター（ハッピーウィング等）の充実」が2割を超えて続いています。

（7）災害時の対応について

① 災害時に医療機関が受診できなかった場合の健康上困ること（身体・知的・難病調査のみ）

「困ることがある」は3割台後半となっています。その理由は、「人口透析を受けている」が1割台半ば、「ストマ用装具（人工肛門・人工膀胱）をつけている」が約1割となっています。その他何らかの理由で「治療や投薬を受ける必要がある」が約6割となっています。

② 災害発生時に健康面や生活面で困ること（精神調査のみ）

災害発生時に健康面や生活面で困ることの1番目に挙げられたのは「普段、服薬している薬が手に入らなくなると困る」が3割台半ばで最も多く、「医療機関の通院やその他の医療ケアが受けられなくなると困る」が2割台前半で続いています。

緊急時の対応策として準備していることは、身体・知的・難病、精神ともに「住宅用火災警報器の設置」が4割台半ば、「消火器の設置」「ガス漏れ警報器の設置」が3割台となっています。

③ 「災害時要援護者登録制度」の周知度

「知っているし、登録もした」は身体・知的・難病で3.4%、精神で7.8%となっています。一方、「制度の名称も名前も知らない」は身体・知的・難病で5割台後半、精神で7割台前半と多くなっています。

（8）ヘルプカードについて

① ヘルプカードの利用希望

平成25年度中に作成、配布を予定している「ヘルプカード」について「利用したい」は身体・知的・難病で4割台半ば、精神で5割台前半となっています。

② 利用したい理由

「ヘルプカード」を利用したい理由は、身体・知的・難病、精神ともに「安心のため」「災害に備えて」の順に半数を超えて多くなっています。「病気のため」「パニックになったとき」は精神で4割を超えています。